

NEJIREBANE, No. 95, 25. Jun. 2001

京都府下から記録されたアリヅカムシについて

野村周平

〒169-0073 東京都新宿区百人町 3-23-1 国立科学博物館動物研究部

1. はじめに

京都府内からはすでに多くのアリヅカムシが記録されている。最も古い記録はおそらく、SHARP (1883)が、George LEWIS 採集の標本に基づいて記載した多くの日本産アリヅカムシのうちの、“Kioto”で採集された2種であろう。

RAFFRAY (1909) は多数の京都産標本を元に9種を記載しており、JEANNEL (1958) が日本のアリヅカムシをまとめた際にもこの標本が使用され、さらに多くの種が追加されている。しかしながら、筆者が日本産アリヅカムシのファウナやその分布を調べていく途上で、どうしても京都付近で採集されたとは考えられない種の標本がこれらの中には混じっている。このような疑問の多い日本産アリヅカムシの真相をタイプ標本に基づいて解明するために、筆者は2000年2月にロンドンの自然史博物館 (大英自博: Natural History Museum, London) ならびにパリ国立自然史博物館 (パリ自博: Museum National d'Histoire Naturelle, Paris) を訪ね、これらタイプ標本に関する調査を行った。この調査により、いくつかの種がシノニムとなったり、属の所属を変更すべきことが明らかになったため、これらの分類学的措置を論文にまとめた (NOMURA, 2001b)。

RAFFRAY以後では、1957年に来日した洞窟生物学の権威、Henri COIFFAIT 博士が京都府瑞穂町で採集し持ち帰った標本に基づいて、JEANNEL (1958) が5種を記載した。さらに、1980年、京都で開催された国際昆虫学会議に出席したスイスの Claude BESUCHET, Ivan LÖBL両博士が多数のアリヅカムシを採集し、いくつかをその後記載している。これらの標本についてはデータはしっかりしており、まっ

たく問題はない。

KUBOTA (1943) は戦時下でありながら、日本人として初めて4種のアリヅカムシを日本と台湾から記載した。そのうちの1種、フジヤマダルマアリヅカムシは“Takao-san, Kyoto Pref.”で採集されたとしたが、これは東京都高尾山の間違いであることが今回判明した。

SAWADA (1969) は *Pselaphogenius* アラメヒゲナガアリヅカムシ属 8種 5亜種を記載した際に、京都府内から *P. paradoxus* サイゴクヒゲナガを記載した。

NOMURA (1988) は日本のハラフトアリヅカムシ亜族をまとめた際に、マルガタオチバアリヅカムシを瑞穂町から記録した。また、ムネトゲアリヅカムシ上族の *Batrisoplisus* 属群を学位論文としてまとめた際 (NOMURA, 1991), BESUCHET 博士や正木清氏などが採集した京都府産の標本を使用して、6種を記録した。さらに、*Petaloscapus* 属の1新種1新亜種を記載した論文で、エラハリムネトゲアリヅカムシを府内4カ所から追加記録している (NOMURA, 2001a)。

今回、京都府の甲虫相をとりまとめておられる水野弘造氏の勧めがあり、以上のような京都府のアリヅカムシ相に関わる記録や所見をまとめておくことにした。ただし、昆虫同好会誌などに発表されたものは十分に収録できていないと思われる。高橋 敏氏が1985年以来発表されている中にくつかの記録がある由、水野氏から伺っているが、標本、文献の確認が出来次第、追加して発表したと考えている。ほかにも遺漏や誤りにお気づきの方は是非筆者宛てご連絡いただきたい。

本稿を草するにあたり、京都府産アリヅカムシの標本を恵与され、本報告を勧められた宇治市の水野弘造氏、有益なご教示をいただいた国立科学博物館の上野俊一博士ならびに小田原市の久保田政雄氏、貴重なアリヅカムシの標本を提供された、大石久志氏、林 靖彦氏に厚く御礼申し上げる。

2. 日本産アリヅカムシのタイプ標本について

SHARP (1874, 1883) が記載した日本産アリヅカムシ 64種のタイプ標本はほぼ完全な状態で大英自博に保存されている。今回筆者は1種を除く63種を検視することができた。また、RAFFRAY (1909) と JEANNEL (1958, 1959) が記載した合計57種についてはバリ自博に所蔵されており、今回そのうち48種を検した。

以上121種のタイプ指定について、著者によるホロタイプの指定 (original designation) は全くない。しかし、国際動物命名規約では、その種が唯一の標本に基づいて記載された場合、その標本をホロタイプと認定する、いわゆる単型 (monotypy) の規定がある (第4版では条73. 1. 2)。これによってホロタイプと認定されるものが49種あった。その他の種については複数のシタイプが存在するが、それらのうち、赤ラベルなどが付され、ホロタイプに準ずるものと判断されるものがある (54種)。また、7種については、後のLÖBL, BESUCHET, KURBATOVらによってレクトタイプが指定されている。

SAWADA (1969) 以降に記載された種については、著者によりホロタイプが指定されており、タイプ指定に関する問題はない。

以下のリスト中、タイプ標本の産地になっているものについては、そのタイプ種別を以下の略号で産地名の後に付記する。ホロタイプ：-HL；ホロタイプに準ずる(上参照)シタイプ：-SY*；その他のシタイプ：-SY；パラタイプ：-PA；レクトタイプ：-LE；タイプシリーズに含まれるが、種別は不明：-TY。

3. 京都府産アリヅカムシ既知種目録

Staphylinidae ハネカクシ科

Pselaphinae アリヅカムシ亜科

Euplectitae ナガアリヅカムシ上族

1. *Philoscotus brevis* K. SAWADA, 1957 マルガタオチバアリヅカムシ

本州北部から九州にかけて広く分布し、森林土壌中に普通。大石 (1991a) が「ナガオチバアリヅカムシの1種」として図示したのも本種と思われるが、産地の記述はない。下記の産地に関してはエラハリムネトゲアリヅカムシの項で説明する。

<既知産地>瑞穂町戸津川 (NOMURA, 1988).

Batrisitae ムネトゲアリヅカムシ上族

2. *Batrisodes (Excavodes) stipes* (SHARP, 1874) アラメトゲアリヅカムシ (和名新称)

JEANNEL (1958) が京都府瑞穂町から記載した、*Speobatrisodes coiffaiti* のタイプ標本を検討したところ、本種の♀個体であることが判明した (NOMURA, 2001b)。この種は種小名に示されるとおり、COIFFAIT 博士が採集した標本に基づいて記載された。博士は日本各地の洞窟探査行の途中でこれらのアリヅカムシを採集したが、本種を含む多くの標本は洞窟内での採集品ではない。COIFFAIT 博士に同行された上野俊一博士のご教示によると、本種が採集されたのは、瑞穂町北部質志 (鍾乳洞がある) から戸津川へ抜ける旧国道173号線榎峠の南側、標高320~380m付近である (質志洞の直下)。この地点はエラハリムネトゲやナガオノヒゲのタイプ産地ともなっているが、現在では新しい国道がすぐそばを通過しており、往時と同じ状況での採集は不可能と思われる。

<既知産地>瑞穂町 (*Speobatrisodes coiffaiti* JEANNEL のホロタイプ: JEANNEL, 1958).

3. *Batrisodellus nipponensis* (RAFFRAY, 1909) ニッポンムネトゲアリヅカムシ (和名新称)

パリ自博のタイプ標本を確認したところ、屋久島から TANABE & NAKANE (1989) が記載した *B. risor* と同一であった (NOMURA, 2001b)。屋久島では本種はきわめて普通な種であるが、本州からは原記載以降まったく発見されていない。このことはきわめて不自然であり、その原因についてドウボソムネトゲの項で考察を行った。

<既知産地> “Kioto” -SY* (RAFFRAY, 1909; JEANNEL, 1958).

4. *Basitrodes vulgaris* (RAFFRAY, 1909) ツヤバネムネトゲアリヅカムシ (和名新称)

京都から♀1頭で記載された。タイプ標本は未確認。

<既知産地> “Kioto” -TY (RAFFRAY, 1909, JEANNEL, 1958).

5. *Batristilbus politus* (SHARP) エグリチイロアリヅカムシ

トビイロケアリ、ハヤシケアリなどのコロニー中に見出される好蟻性種である。個体数も比較的多く、分布も広い。

<既知産地> “environs de Kyoto” (JEANNEL, 1958); 京都市貴船 (TANOKUCHI, 1988).

6. *Batristilbus concolor* (SHARP) ツヤチイロアリヅカムシ

クロクサアリなどのコロニー中に見られる好蟻性種である。関東以北では比較的普通に見られるが、西日本では局地的で個体数も少ない。

<既知産地>京都市東山 (大石, 1991b)

7. *Petaloscapus temporalis temporalis* JEANNEL, 1958 エラハリムネトゲアリヅカムシ

本種は当初、*P. fissifrons* SHARP の亜種として記載されたが、大英自博およびパリ自博に所蔵される両種のタイプ標本を調べたところ、まったくの別種であることが判明した。これにより NOMURA (2001a) は本種を独立種とし、四国から別亜種、*P. temporalis yoshidai* を記載したので、表記の学名となっている。

本種はアラメムネトゲやナガオノヒゲと同じく、COIFFAIT 博士採集の標本に基づいて記載された。タイプ産地の詳しい位置については、アラメムネトゲの項に示したとおりである。一方、野村が本

種やマルガタオチバ、ナガオノヒゲなどを採集した戸津川の採集地点は、同じ旧国道沿いの榎峠北側(集落の上側)だったと記憶している。本種は、岐阜、福井両県を含む近畿地方一円に分布し、森林土壌中に普通に見られる。

<既知産地>瑞穂町 -HL (JEANNEL,1958): 瑞穂町戸津川,京都市貴船,和東町鷲峰山,宇治市木幡 (NOMURA, 2001a).

8. *Tribasodes longipes* JEANNEL,1958 ドウボソムネトゲアリヅカムシ (和名新称)

パリ自博のタイプ標本を実検したところ、“Japon/kioto”と記されたラベルともう一つ、“Japon, Kioto/DONCKIER”というラベルがその下(つまり時代が後)につけられていた。DONCKIERとは、パリ自博の研究者にアジア方面の甲虫資料をもたらした、Donckier DE DONCEEL氏である。彼が持ち込んだ日本産アリヅカムシ標本の中には“Yunnan”というラベルの付いた3種 (*Arthromelodes dilatatus*, *Batrisцениоla semipunctulata*, *Tychus crassicornis*)があったが、それらはいずれも日本国内から再確認されており、これらは産地名を誤ってつけられた日本産標本であろうとされている(RAFFRAY, 1909; JEANNEL, 1958; NOMURA, 2000b)。彼がもたらした標本の入手先は当時京都花園にあったといわれる花園昆虫研究所ではなかったか、と筆者は推測している。花園昆虫研究所からヨーロッパに出回った標本は採集地の記述がなく、研究所の所在地をとって“Kioto”とされていたようで、日本産甲虫の分布を調査する際には、厳重に注意しなければならない。

本種はタイプ標本以外は屋久島のみから採集されている。タイプとなったDONCKIER標本は、屋久島で採集されたものが花園昆虫研究所に送られ、Donckier DE DONCEEL氏を介してパリ自博に持ち込まれた可能性がある。前述したニッポンムネトゲ (= *B. risor* TANABE et NAKANE)もやはり、タイプ標本以外には屋久島からしか採集されておらず、同様な経路を通してRAFFRAYの手元にもたらされたのではないだろうか。

<既知産地> “Kyoto” -SY (JEANNEL,1958).

9. *Batrisoplisus sagamianus* NOMURA,1991 サガミフサヒゲアリヅカムシ (和名新称)

ホロタイプの産地は神奈川県松田であるためこの名があるが、下記の産地もタイプ産地の一つとなっている。

<既知産地> 亀岡市稗田野 -PA (NOMURA,1991).

10. *Batrisoplisus raffrayi* JEANNEL,1958 ラフレイフサヒゲアリヅカムシ

本種は北海道から対馬、屋久島まで広く分布する種で、草原の積み草やススキ落葉中に高い密度で見られる。

<既知産地> “environ de Kyoto” -SY* (JEANNEL,1958).

11. *Batriscenellus (Batriscenellus) fragilis* (SHARP,1883)ホソハラクボアリヅカムシ

横浜、京都、新潟をタイプ産地として記載されたが、NOMURA (1991)では京都の記録は再録していない。後に四国、九州にも分布していることが明らかになった。ススキ草原の積み草や落葉中に高い密度で見られる。

<既知産地> “Kioto” -SY* (SHARP,1883; RAFFRAY,1909; JEANNEL,1958).

12. *Batriscenellus (Batriscenellus) fallax* (SHARP,1883)ヒメハラクボアリヅカムシ (和名改称)

北隆館の「日本産昆虫図鑑」(1950)では和名が「ヒメツヤアリヅカムシ」となっていたが、近似種と和名語尾を統一するため、上記のように改称したい。近畿地方以东の本州と北海道に分布する。前種とは異なり、自然度の高い森林落葉土中に見られる。

<既知産地> “Kyoto” -SY (JEANNEL,1958).

13. *Batriscenellinus (Batriscenellinus) uenoi* NOMURA,1991 ウエノツヤアリヅカムシ

ホロタイプの産地は長野県中川村で、北海道から九州まで広く分布する(四国からは未記録)。京都産の標本は BESUCHET 博士が国際昆虫学会議(1980年)の際に採集された標本に基づく。川原や火山礫地などのような砂礫地に好んで生息する。

<既知産地> “Kyoto” -PA (NOMURA, 1991).

14. *Batriscenaulax modestus* (SHARP, 1874) ハケスネアリヅカムシ

従来 *B. furuhatai* (KUBOTA) とされていた種は、タイプ標本を調査した結果、本種のシノニムであることが判明した (NOMURA, 2001b)。関東地方から九州にかけて、平地の二次林などによく見られる種である。

<既知産地> 亀岡市稗田野 (NOMURA, 1991).

15. *Batriscenaulax longipes longipes* JEANNEL, 1958 ナガスネアリヅカムシ

JEANNEL (1958) によれば、京都産のホロタイプ1♂は、RAFFRAY コレクション中の多数のホソハラクボのロット(前述の Donckier 標本)中から発見された、とのことである。北海道から九州まで広く分布し、二次林の落葉中などに多い。

<既知産地> “Kyoto” -HL (JEANNEL, 1958); “Kyoto”, 京都市左京区貴船, 同鞍馬山, 同八瀬遊園 (NOMURA, 1991).

16. *Batrisceniola dissimilis* (SHARP, 1874) アナズアリヅカムシ

本州ブナ帯の森林土壌にもっとも多く見られる種の一つである。

<既知産地> 京都市左京区貴船, 同鞍馬山, 同岩倉, 瑞穂町戸津川 (NOMURA, 1991).

17. *Batrisceniola hiranoi* NOMURA, 1991 ヒラノアナズアリヅカムシ

前種と分布域が完全にオーバーラップするが、より局地的である。

<既知産地> “Kyoto” -PA, 亀岡市稗田野 -PA (NOMURA, 1991).

18. *Batrisceniola semipunctulata* (RAFFRAY, 1909) メンガタアリヅカムシ (和名新称)

原記載のタイプ産地は単に “Japon” とのみ記してあるが、JEANNEL (1958) は “environs de Kyoto (京都周辺)” としている。パリ自博のタイプを確認したところ “Japon/Kioto” と明記してあった。後に大石 (1991a) が「ムネトゲアリヅカムシの一種」として紹介したのは本種で、深泥池で採集されたことが報じられている。アシの生える湿地などに見られる。

<既知産地> “Kioto (environ de Kyoto)” -SY* (JEANNEL, 1958); 京都市北区深泥池 (大石, 1991a).

Goniaceritae オノヒゲアリヅカムシ上族

19. *Nipponobythus syrbatoides* JEANNEL, 1958 モリオオズアリヅカムシ (和名新称)

COIFFAIT 標本に基づく。地下浅層に産する種である。

<既知産地> 瑞穂町 -HL (JEANNEL, 1958).

20. *Triomicrus sublaevis* RAFFRAY, 1909 スベマルムネアリヅカムシ

本州、九州、下甕島の山地樹林に産する。

<既知産地> “Kioto” -HL (RAFFRAY, 1909; JEANNEL, 1958; LÖBL et al., 1998a).

21. *Triomicrus sternalis* LÖBL, 1998 トガリマルムネアリヅカムシ

<既知産地> 美山町佐々里峠 -PA (LÖBL et al., 1998a).

22. *Trissemus alienus* (SHARP, 1874) ナミエンマアリヅカムシ

長崎から記載された種だが、本州北部から屋久島まで広く分布する。下の産地は COIFFAIT 標本に基づくもの。

<既知産地> 瑞穂町 (JEANNEL, 1958).

23. *Trissemus curtus* (SHARP,1874) ヒゲブトエンマアリヅカムシ

大英自博に保存されている本種のタイプ標本を検したところ、RAFFRAY (1909) が記載した *T. antilope* と同一種であることが判明した (NOMURA,2001b)。 *T. antilope* のタイプ標本は京都産とされている。本種は本州、九州に産し、海岸に近い草地などから発見されており、灯火にも飛来する (NOMURA, 1999参照)。

<既知産地> “Kioto” (*Trissemus antilope* のシンタイプ: RAFFRAY,1909; JEANNEL,1958)。

24. *Rybaxis infusata* RAFFRAY,1909 ヒメダイコクアリヅカムシ (和名新称)

北海道、本州に分布し、湿原に生息する。タイプ標本は未確認。

<既知産地> “Kioto” -TY (RAFFRAY,1909; JEANNEL,1958)。

25. *Bryaxis frontalis* JEANNEL,1958 ナガオノヒゲアリヅカムシ

本種以下10種を含む *Bryaxis* 属は森林や草原のリター中から発見されるアリヅカムシで、以下に示されるとおり、1ヵ所から近似の種が多数発見されるため、同定には注意を要する。LÖBL et al. (1998b) は日本産本属をまとめ、21新種を含む34種とした。しかしながら、九州、琉球方面にはまだ多数の未記載種が眠っており、全体ではこの倍以上の種が日本に生息するものと推測される。本種は属内では中型 (1.3-1.4mm) の種で、本州中部から九州にかけて広く分布し、森林落葉中に見られる。

<既知産地>瑞穂町 -HL (JEANNEL,1958);京都市左京区芹生峠,瑞穂町戸津川 (LÖBL et al.,1998b)。

26. *Bryaxis japonicus* (SHARP,1874) ヤマトオノヒゲアリヅカムシ

<既知産地>京都市左京区貴船(LÖBL et al.,1998b)。

27. *Bryaxis sawadai* LÖBL et al.,1998 サワダオノヒゲアリヅカムシ

<既知産地> “Kyoto” -PA,京都市北区大文字山-PA (LÖBL et al.,1998b)。

28. *Bryaxis sauteri* RAFFRAY,1909 ザウターオノヒゲアリヅカムシ

<既知産地>京都市左京区比叡山,同芹生峠 (標高500-600m),同八瀬遊園 (LÖBL et al.,1998b)。

29. *Bryaxis karate* LÖBL et al.,1998 カラテオノヒゲアリヅカムシ

<既知産地>京都市左京区芹生峠 (標高500-600m) -HL (LÖBL et al.,1998b)。

30. *Bryaxis yari* LÖBL et al.,1998 ヤリオノヒゲアリヅカムシ

<既知産地>京都市左京区芹生峠 (標高500-600m) -HL (LÖBL et al.,1998b)。

31. *Bryaxis humilis* RAFFRAY,1909 エクボオノヒゲアリヅカムシ

原記載では *B. japonicus* の変種として記載されている。本州、九州に分布し、低地の河川敷草原などに見られるがあまり多くない。LÖBL et al.(1998b)によってレクトタイプが指定されているが、筆者は検視していない。

<既知産地> “Kioto” -LE (RAFFRAY,1909;JEANNEL,1958)。

32. *Bryaxis koltzei* (REITTER,1887) ウスリーオノヒゲアリヅカムシ

<既知産地>京都市左京区八瀬遊園 (LÖBL et al.,1998b)。

33. *Bryaxis reversus* (SHARP,1883) ミフシオノヒゲアリヅカムシ

<既知産地>京都市左京区芹生峠 (標高500-600m),同八瀬遊園 (LÖBL et al.,1998b)。

34. *Bryaxis extremalis* KURBATOV,1990 チシマオノヒゲアリヅカムシ

<既知産地>京都市左京区芹生峠 (LÖBL et al.,1998b)。

35. *Bythoxenites brevipilis* LÖBL et KURBATOV,1996 キョウトカマヒゲアリヅカムシ (和名新称)

本種のタイプ産地は “Oyamazuki,Kyoto-Fu” となっているが、大山崎町のことであろう。澤田高平博士採集標本に基づいている。

<既知産地> “Oyamazuki” -HL (LÖBL & KURBATOV,1996)。

Pselaphitae ヒゲナガアリヅカムシ上族

※*Paracyathiger fujiyamai* (KUBOTA,1943) フジヤマダルマアリヅカムシ

本種の原記載には, "I examined only a single specimen which was found by Mr.I.FUJIYAMA at Takao-san (Kyoto Pref.) on 24th of May, 1942. The sex is yet undeterminable." と記されている. この件について小田原市在住の久保田政雄氏に伺ったところ, "Takao-san" は東京の高尾山であり, "Kyoto Pref." は印刷ミスとのことであった. 久保田氏は, 昭和17年の秋に急いで本論文の原稿を書き, 大学の2年先輩であった井上寛氏にこれを託して, すぐ入営してしまったので, 自身で校正することができなかった, とのことである. なお, 種小名を献名された採集者は, 科博で古生物を研究しておられた藤山家徳氏であるとのことであった.

36. *Pselaphogenius paradoxus* K.SAWADA,1969 サイゴクヒゲナガアリヅカムシ

種としては近畿地方から九州全域にかけて広く分布するが, 原名亜種は琵琶湖西岸から兵庫県東部にかけての限られた地域から記録されている(NOMURA,2000a参照).

<既知産地>京都市左京区貴船-HL,同比叡山-PA (SAWADA,1969).

37. *Pselaphalax japonicus* (RAFFRAY,1909) ヤマトアリヅカムシ

本州, 九州から記録されているが産地は少なく, 珍種の類に属する. 湿地や草原に生息し, 灯火に飛来することもある.

<既知産地> "Kioto" -SY* (RAFFRAY,1909, JEANNEL,1958)

38. *Tyraphus nitidus* RAFFRAY,1909

タイプ標本は未見で, 正体不明の種である.

<既知産地> "Kioto" -TY (RAFFRAY,1909;JEANNEL,1958).

39. *Pilopius discedens* (SHARP,1883) ホソクシヒゲアリヅカムシ

九州人吉から記載された種で, 本州, 九州に分布する. 珍しいものではないが, 個体数は多くない. やや乾燥した落葉中などに見られる.

<既知産地> "Kioto" (JEANNEL,1958).

40. *Lasinus monticola* K. SAWADA,1961 ヤマオトゲアリヅカムシ

SHARP (1874)が記載した *Lasinus spinosus* オオトゲアリヅカムシは長崎市諏訪神社産の3個体をタイプとしている. SHARP (1883)はさらに "Kuroheiji", 箱根宮ノ下および木賀, 京都, 神戸, 大阪, 小山から追加した. しかし, 原記載に使われた九州産と追加された本州産は明らかに別種であり, さらに追加標本中にはヤマオトゲも混じっていた. JEANNEL (1958) が再記載し, 図示したのは本州産の未記載種の方であったため, *spinosus* は混乱したまま使われてきた. 今回, タイプシリーズを含む大英自博所蔵標本をチェックし, 後から追加された京都産の標本を検したところ, 本種であったので記録しておく. 本種は, 本州(長野, 奈良, 鳥取), 九州(福岡, 鹿児島)をタイプ産地として記載された(ホロタイプ産地は福岡県英彦山).

<既知産地> "Kioto" (SHARP,1883— "*L. spinosus* SHARP").

Clavigeritae ヒゲブトアリヅカムシ上族

41. *Diartiger fossulatus ispartae* (KARAMAN) コヤマトヒゲブトアリヅカムシ (中部近畿亜種)

古くからよく知られているアリヅカムシで, 代表的な好蟻性甲虫でもある. トビイロケアリなどケアリ属の巣に侵入し, 共生していることが多い. 本種は北海道南部から九州南部までの日本と韓国南部に分布し, NOMURA (1999) により7亜種に分類されている. 京都府内のものはおそらくすべて中部近畿亜種に属すると考えられる. 大石 (1991a,b)も写真を図示し, 解説しているが, 産地に関する

る記述はない。

<既知産地>京都市左京区岩倉, 同貴船, 同鞍馬山, 同東山区今熊野泉涌寺, 瑞穂町戸津川 (NOMURA, 1999).

42. *Diartiger kubotai* NOMURA クボタヤマトヒゲブトアリヅカムシ

前種に類似するが, 腹部基部の凹陷が著しく横長である点で容易に区別できる。分布域は前種とオーバーラップしており, 宿主蟻もほぼ共通であるため, 単一のアリの巣から両種が採集された例もある。

<既知産地>京都市左京区貴船-PA (NOMURA, 1999).

以上, 京都府下からは42種のアリヅカムシが知られることとなる。一様なサンプリングの結果ではないので, 安易に他県と比較することはできないが, 今後の分類同定の目安となれば幸いである。さらなる調査結果の集積を待ちたい。

引用文献

- JEANNEL, R., 1958. Révision des Psélaphides du Japon. Mém. Mus. Hist. nat., Paris, (A), 18: 1-138.
- KUBOTA, M., 1943. New and little known Pselaphidae from Japan. Trans. Kansai ent. Soc., 14(1): 6-11.
- LÖBL, I. and S. A. KURBATOV, 1996. A review of the Japanese *Tychobothinus* and *Bythoxenites* (Coleoptera, Staphylinidae, Pselaphinae). Rev. suisse Zool., 103: 919-938.
- LÖBL I., S. A. KURBATOV and S. NOMURA 1998a A revision of the genus *Triomicrus* SHARP (Coleoptera, Staphylinidae, Pselaphinae). Bull. natn. Sci. Mus., Tokyo, Ser. A, 24: 69-105.
- LÖBL, I., S. A. KURBATOV and S. NOMURA, 1998b. On the Japanese species of *Bryaxis* (Coleoptera: Staphylinidae: Pselaphinae), with notes on allied genera and on endoskeletal polymorphy. Species Diversity, Sapporo, 3: 2 19-269.
- NOMURA, S., 1988. A revision of the subtribe Acetaliina (Coleoptera, Pselaphidae) from Japan, Part II. Kontyû, Tokyo, 56: 515-521.
- NOMURA, S., 1991. Systematic study on the genus *Batrisoplisus* and its allied genera from Japan (Coleoptera, Pselaphidae). Esakia, Fukuoka, (30): 1-462.
- NOMURA, S., 1999. A systematic revision of the clavigerine genus *Diartiger* SHARP from East Asia (Coleoptera, Staphylinidae, Pselaphinae). Esakia, Fukuoka, (37): 77- 1 10.
- NOMURA, S., 2000a. A taxonomic revision of the Japanese species of the genus *Pselaphogenius* (Coleoptera, Staphylinidae, Pselaphinae) part 2, *Pselaphogenius paradoxus*. Mem. natn. Sci. Mus., Tokyo, (32): 141-149.
- NOMURA, S., 2000b. A list of the pselaphine and protopselaphine species (Coleoptera, Staphylinidae) collected from Yunnan, Southwest China in 1992- 1998. In AOKI, J. et al. (eds.), Taxonomical Studies on the Soil Fauna of Yunuan Province in Southwest China, Tokai University Press, Tokyo, pp. 197-238.
- NOMURA, S., 2001 a. Taxonomical notes on *Petaloscopus temporalis* JEANNEL, and its new allied species (Staphylinidae, Pselaphinae) from Honshu and Shikoku, Japan. Spec. Bull. Japan Coleopt. Soc., Osaka, (1). (投稿中)
- NOMURA, S., 2001b. Taxonomical review and a list of the pselaphine species known from Japan (Staphylinidae, Pselaphinae). Elytra, Tokyo, 29 (1): 141-160.
- RAFFRAY, A., 1909. Nouvelles especes de Pselaphides. Anns. Soc. ent. Fr., 78: 15-52.
- SAWADA, K., 1969. Some new species of *Pselaphogenius* of Japan (Coleoptera, Pselaphidae). Kontyû, Tokyo, 37: 1- 19.
- SHARP, D., 1874. The Pselaphidae and Scydmaenidae of Japan. Trans. ent. Soc. London, 1874: 105-130.
- SHARP, D., 1883. Revision of the Pselaphidae of Japan. Trans. ent. Soc. London, 1883: 291-331.
- TANABE, T. and T. NAKANE, 1989. Three new species of the genus *Batrisodellus* (Coleoptera, Pselaphidae) from Japan. Jpn. J. Ent., 57: 734-741.
- TANOKUCHI, Y., 1988. Notes on the genus *Batristilbus* RAFFRAY (Coleoptera, Pselaphidae). Ent. Rev. Japan, 43: 69-76.
- 大石久志, 1991a. アリヅカムシの仲間(コウチュウ目, アリヅカムシ科). 京都昆虫研究会編, 京都の昆虫, 京都新聞社, 京都市, P.75.
- 大石久志, 1991b. アリと共生する昆虫たち. 京都昆虫研究会編, 京都の昆虫, 京都新聞社, 京都市, P.217.



野村周平(のむら・しゅうへい) 国立科学博物館動物研究部昆虫第2研究室。1962年佐賀県生まれ。1989年九州大学大学院農学研究科博士後期課程単位取得退学。1990年農学博士号取得。1990～1995年九州大学農学部助手を経て1995年より現職。専門分野; アリヅカムシなどハネカクシ類の分類, 系統, 生態学。

(のむら しゅうへい)

三重県産コメツキムシの記録 (8) 横関秀行氏の蒐集資料について

岸井 尚

〒569-1044 高槻市上土室 1-10, 6-410

今回報告するのは三重県四日市市の横関秀行氏が蒐集されたもので、生川展行氏を通して供されたものである。1種 (*Fleutiauxellus insulsus*) を除くと、他は全てこれまでに三重県からの記録例の有的ものであるが、未記載の2種 (*Scutellathous* sp., *Dalopius* sp.) を含む。

Pectocera hige hige KISHII, 1993 ヒゲコメツキ

員弁郡藤原町三国谷, 1♂, 1♀, 1.VII.2000 (at light); 四日市市水沢町宮妻峡, 1♂, 4.VI.2000 (at light); 多気郡宮川村総門山, 1♀, 24.VII.1999 (at light).

Agrypnus (Agrypnus) binodulus binodulus (MOTSCHULSKY, 1861) サビキコリ

員弁郡大安町石樽東, 7♂♂, 1♀, 21.VII.1998 (at light); 員弁郡北勢町麻生田天王橋員弁川, 1♂, 9.VI.2000 (at light); 度会郡紀勢町柏野, 1♂, 10.VII.2000 (at light).

Agrypnus (Agrypnus) cordicollis (CANDÈZE, 1865) ムナビロサビキコリ

亀山市野登山, 1♂, 1♀, 23.V.2000; 三重郡菰野町雲母峰, 2♂♂, 2.VI.2000.

Agrypnus (Colaulon) scrofa scrofa (CANDÈZE, 1873) ヒメサビキコリ

員弁郡大安町石樽東, 2♀♀, 21.VII.1998 (at light); 員弁郡北勢町麻生田天王橋員弁川, 1♂, 2♀♀, 19.VI.2000 (at light); 四日市市水沢町宮妻峡, 6♂♂, 16.V.2000.

Lacon (Alaotypus) maeklinii maeklinii (CANDÈZE, 1865) オオサビコメツキ

多気郡宮川村迷岳, 1♂, 3.VIII.2000 (at light); 多気郡宮川村総門山, 1♂, 19.VIII.2000 (at light).

Cryptalaus berus (CANDÈZE, 1865) ウバタマコメツキ

三重郡菰野町尾高高原, 1♂, 7.VI.2000.

Tetrigus lewisi CANDÈZE, 1873 オオクシヒゲコメツキ(写真1)

多気郡宮川村総門山, 1♂, 1♀, 24.VII.1999 (at light).

体形や構造がどことなく原始的な感じの強いコメツキであり、本邦全域から東南アジアまで広い分布をもつ大型種で、島嶼などでは時に多くの個体が灯火に集まることもある。三重県では伊勢市などから既に報告されているが、最近の採集例は全国的にも非常に少なくなっているようである。

Prodrasterius agnatus (CANDÈZE, 1873) マダラチビコメツキ

員弁郡大安町石樽東, 4exs., 21.VII.1998 (at light); 員弁郡北勢町麻生田天王橋員弁川, 96 exs., 19.VI.2000 (at light); 員弁郡東員町北大社大社橋員弁川, 1♂, 4.VII.2000 (at light); 多気郡宮川村総門山, 1♂, 21.VII.1999 (at light)

Stenagostus umbratilis (LEWIS, 1894) オオツヤハダコメツキ

員弁郡藤原町三国谷, 1♂, 1.VII.2000 (at light); 亀山市野登山, 2♂♂, 1.VII.2000 (at light); 伊勢市剣峠, 1♂, 6.VIII.2000; 多気郡宮川村迷岳, 3♀♀, 3.VIII.2000 (at light); 多気郡宮川村総門山, 1♀, 18.VII.1998; 2♂♂, 24.VII.1999 (at light).

Scutellathous sp. nov. ホソアカツヤコメツキ

多気郡宮川村迷岳, 1♂, 16.VII.2000.

本シリーズの第1, 4, 6報でも述べているが、これまでに京都・三重・奈良・和歌山・高知・宮崎の府県採集されている種で、近縁の *comes*, *ozakii*, *fujianus*, *shikokuanus*, *yakuensis* などとは多

くの点で異なる。一見したとき *Harmenathous suturalis* によく似た色彩と体形を持つ種である。

なお、九州には本種に似て非なる全くの別種も分布しており、これらについては近く論述したい。

Medakathous jactatus jactatus (LEWIS, 1894) メダカツヤハダコメツキ
亀山市野登山, 1♂, 19.VII.2000.

Hemicrepidius (Hemicrepidius) secessus secessus (CANDEZE, 1873) クロツヤハダコメツキ

三重郡菰野町尾高高原, 1♂, 7.VI.2000; 多気郡宮川村総門山, 1♀, 18.VII.1998.

Hemicrepidius (Hemicrepidius) sinuatus sinuatus (LEWIS, 1894) コクロツヤハダコメツキ
飯南郡飯高町明神平, 1♂, 10.VI.1999; 5♂♂, 1♀, 10.VII.1999; 多気郡宮川村迷岳, 4♂♂, 9.VII.2000; 3♂♂, 16.VII.2000.

Corymbitodes gratus (LEWIS, 1894) ドウガネヒラタコメツキ
三重郡菰野町朝明溪谷伊勢谷, 1♂, 30.III.1999.

Corymbitodes rubripennis (LEWIS, 1894) オオベニホソヒラタコメツキ (写真2)
飯南郡飯高町明神平, 1♀, 10.VI.1999.

Corymbitodes nikkoensis (JAKOBSON, 1913) ベニホソヒラタコメツキ (写真3)
飯南郡飯高町明神平, 1♂, 22.V.1999.

前種とよく似ていて混同しがちだが、前胸背後角の突起先端部の状態で容易に区別できる。鋭角状で、先端そのものは鈍端なのが本種であり、明らかに広く裁断状なのが前種である。今回の様に同所で両種が採集されることは珍しいことと思う。その日時の差と性の違いから同種内の性差と見られかねないが、この両種は異なる種である。

Atenicerus odaisanus (MIWA, 1928) オオダイルリヒラタコメツキ (写真4)
飯南郡飯高町明神平, 1♂, 1♀, 22.V.1999.

台高山系特有の美しいシモフリコメツキ類であり、既に三重県下の報告例はあるが、このシリーズでは初めての記録となる。

Atenicerus pruinosus MOTSCHULSKY, 1861 シモフリコメツキ
飯南郡飯高町明神平, 6♂♂, 2♀♀, 22.V.1999; 1♂, 4♀♀, 10.VI.1999

Atenicerus aerosus aerosus (LEWIS, 1879) ヘリアカシモフリコメツキ
三重郡菰野町雲母峰, 1♂, 2.VI.2000; 飯南郡飯高町明神平, 1♀, 22.V.1999; 多気郡宮川村迷岳, 1♀, 9.VII.2000.

Calambus japonicus (FLEUTIAUX, 1902) クロツヤヒラタコメツキ
多気郡宮川村迷岳, 1♀, 9.VII.2000.

Hayekpenthes pallidus pallidus (LEWIS, 1894) ホソキコメツキ
亀山市野登山, 1♂, 19.VII.2000; 2♂♂, 11.VIII.2000 (at light); 多気郡宮川村総門山, 1♂, 1♀, 24.VII.1999 (at light).

Ampedus (Miwaelater) carbunculus (LEWIS, 1879) ヒメクロコメツキ

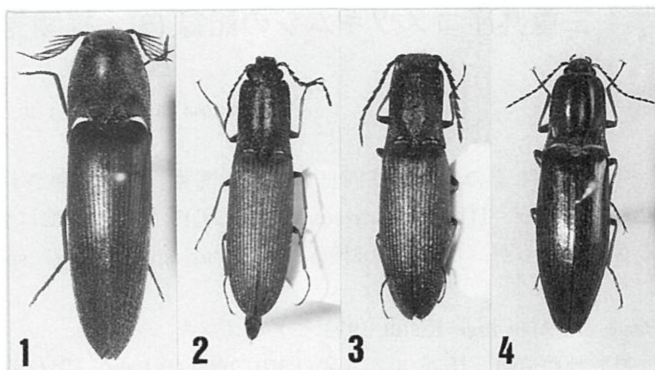


写真1-4: 1.オオクシヒゲコメツキ(♂, 20.6mm); 2.オオベニホソヒラタコメツキ(♀, 9.7mm); 3.ベニホソヒラタコメツキ(♂, 8.3mm); 4.オオダイルリヒラタコメツキ(♀, 17.1mm).

鈴鹿郡関町市ノ瀬, 1♂, 29.V.2000; 多気郡宮川村迷岳, 1♀, 16.VII.2000; 1♀, 3.VIII.2000; 熊野市桶ヶ崎, 1♀, 15.IV.1999.

Ampedus (Ampedus) japonicus japonicus SILFVERBERG, 1977 アカアシクロコメツキ

三重郡菰野町雲母峰, 1♂, 2.VI.2000; 亀山市野登山, 1♀, 1.VII.2000 (at light); 多気郡宮川村迷岳, 2♀, 15.VI.2000; 奈良県上北山村弥山, 1♀, 9.XII.1999 (材中).

Ampedus (Ampedus) hypogastricus hypogastricus (CANDÈZE, 1873) アカハラクロコメツキ

三重郡菰野町雲母峰, 3♂♂, 30.V.2000; 1♂, 2.VI.2000; 伊勢市宇治今在家町高麗広, 1♀, 16.I.1999 (at light); 多気郡宮川村迷岳, 1♀, 15.VI.2000.

Ampedus (Ampedus) tenuistriatus (LEWIS, 1894) ホソクロコメツキ

飯南郡飯高町明神平, 1♂, 10.VI.1999.

Ampedus (Ampedus) aureovestitus aureovestitus KISHII, 1966 ケブカコクロコメツキ

飯南郡飯高町明神平, 1♀, 10.VI.1999.

Dalopius exilis KISHII, 1956 ナガナカグロヒメコメツキ

飯南郡飯高町明神平, 2♂♂, 22.V.1999; 1♂, 1♀, 10.VI.1999.

Dalopius tamui KISHII, 1957 ホソナカグロヒメコメツキ

飯南郡飯高町明神平, 2♀♀, 22.V.1999; 1♀, 10.VI.1999.

Dalopius patagiatus (LEWIS, 1894) クロスジヒメコメツキ

飯南郡飯高町明神平, 1♀, 10.VI.1999.

Dalopius sp. nov. クロホソヒメコメツキ (仮称)

多気郡宮川村迷岳, 1♂, 15.VI.2000; 飯南郡飯高町明神平, 6♂♂, 2♀♀, 22.V.1999; 1♂, 8.VI.1999; 2♂♂, 10.VI.1999; 1♀, 10.VII.1999.

筆者が本誌の第83号(1999:6)及びこのシリーズの第6報でも触れているが、これまで *tamui exilis* などの黒化型、または *niponensis* と誤認していたものである。今回、多くの個体が得られたので検討の結果、新しい種個体群と見なし近く記載する予定である。三重以外では京都・奈良・和歌山などの近隣地域にも分布している。

Ectinus sericeus sericeus (CANDÈZE, 1878) カバイロコメツキ

三重郡菰野町明湊谷伊勢谷, 8 exs., 8.VI.1999; 三重郡菰野町雲母峰, 1♀, 8.VI.1999; 1♀, 2.VI.2000.

Agriotes elegantulus LEWIS, 1894 ヒメカバイロコメツキ

亀山市野登山, 1♂, 1♀, 3.VIII.2000.

Nipponoelater sieboldi sieboldi (CANDÈZE, 1873) オオナガコメツキ

亀山市野登山, 1♂, 17.VIII.2000; 多気郡宮川村総門山, 1♂, 19.VIII.2000 (材中).

Dolerosomus gracilis (CANDÈZE, 1873) キバネホソコメツキ

三重郡菰野町雲母峰, 7♂♂, 4♀♀, 30.V.2000; 四日市市水沢町宮妻峡, 2♂♂, 1♀, 16.V.2000.

Silesis musculus musculus CANDÈZE, 1873 クチブトコメツキ

員弁郡東員町北大社大社橋員弁川, 1♀, 4.VII.2000 (at light); 亀山市野登山, 1♂, 11.VIII.2000; 伊勢市剣峠, 1♂, 6.VIII.2000.

Glyphonyx bicolor bicolor CANDÈZE, 1893 キバネクチボソコメツキ

亀山市野登山, 3♀♀, 3.VIII.2000; 多気郡宮川村迷岳, 1♂, 3.VIII.2000.

Glyphonyx illepidus CANDÈZE, 1873 クチボソコメツキ

亀山市野登山, 3♀♀, 19.VII.2000; 1♀, 3.VIII.2000 (バケツ); 2♀♀, 11.VIII.2000 (バケツ); 1♂, 1♀, 19.VIII.2000.

Melanotus legatus legatus CANDÈZE, 1860 クシコメツキ

員弁郡藤原町三国谷, 16♂♂, 2♀♀ 1.VII. 2000 (at light); 員弁郡東員町北大社大社橋員弁川, 1♀, 19.VI. 2000 (at light); 三重郡菰野町雲母峰, 1♀, 30.V.2000; 四日市市水沢町宮妻峡, 4♂♂, 4.VI.2000 (at light); 四日市市桜台団地, 1♂, 1♀, 7.VI.2000; 河芸郡安濃町内田, 1♂, 10.VII.2000 (at light).

Melanotus correctus correctus CANDÈZE, 1865 ヒラタクロクシコメツキ

亀山市野登山, 1♂, 23.V.2000; 1♀, 19.VII.2000; 三重郡菰野町雲母峰, 6♂♂, 30.V.2000; 3♂♂, 2.VI.2000; 多気郡宮川村迷岳, 1♂, 1.VII.2000; 1♂, 9.VII.2000; 1♂, 16.VII.2000.

Melanotus legatoides KISHII, 1975 ヒメクシコメツキ

員弁郡藤原町三国谷, 1♂, 1♀ 1.VII. 2000 (at light); 亀山市野登山, 1♀, 23.V.2000; 伊勢市剣峠, 2♂♂, 6.VIII. 2000; 多気郡宮川村迷岳, 1♀, 15.VI.2000; 1♀, 9.VII.2000; 多気郡宮川村総門山, 1♀, 19.VIII. 2000 (材中).

Melanotus annosus CANDÈZE, 1865 クロツヤクシコメツキ

三重郡菰野町雲母峰, 1♀, 2.VI.2000; 多気郡宮川村迷岳, 1♂, 15.VI.2000; 3♀♀, 9.VII.2000; 3♀♀, 16.VII.2000.

Melanotus erythropygus erythropygus CANDÈZE, 1865 コガタクシコメツキ

三重郡菰野町雲母峰, 3♂♂, 30.V.2000; 2♂♂, 2.VI.2000; 亀山市野登山, 1♂, 23.V.2000; 多気郡宮川村迷岳 2♂♂, 15.VI.2000; 3♀♀, .VII.2000; 1♀, 16.VII.2000; 熊野市楯ヶ崎, 3♂♂, 15.IV.1999.

Spheniscosomus cete cete (CANDÈZE, 1860) アカアシオオクシコメツキ

三重郡菰野町雲母峰, 1♀, 30.V.2000; 三重郡菰野町尾高高原, 1♀, 7.VI.2000; 熊野市楯ヶ崎, 2♂♂, 15.IV.1999.

Spheniscosomus koikei (KISHII et OHIRA, 1956) ヒラタクシコメツキ

員弁郡大安町石樽東, 1♀, 21.VII.1998 (at light); 三重郡菰野町雲母峰, 1♀, 30.V.2000; 熊野市楯ヶ崎, 1♂, 15.IV.1999.

Fleutiauxellus (Migiwa) insulsus (CANDÈZE, 1873) クロミズギワコメツキ

度会郡紀勢町柏野, 2♂♂, 10.VII.2000 (at light); 多気郡宮川村迷岳 1♂, 3.VIII.2000 (at light).

京都・奈良・和歌山などの近隣府県からの記録があるが、三重県からは初めての報告となるものと思う。近縁の次種 *curatus* などと混同されていた可能性はあるかもしれない。

Fleutiauxellus (Migiwa) curatus curatus (CANDÈZE, 1873) ミズギワコメツキ

員弁郡北勢町麻生田天王橋員弁川, 3♂♂, 1♀, 19.VI.2000.

Zorochros (Pronegastrius) humeralis humeralis (CANDÈZE, 1873) カタモンチビコメツキ

四日市市水沢町宮妻峡, 3♂♂, 1♀, 16.V.2000.

Quasimus japonicus KISHII, 1959 ニホンチビマメコメツキ

亀山市野登山, 3 EXS., 23.V.2000.

Yukoana carinicolis (LEWIS, 1894) ヘリムネマメコメツキ

飯南郡飯高町明神平, 1♀, 22.V.1999.

Paracardiophorus pullatus pullatus (CANDÈZE, 1873) コハナコメツキ

三重郡菰野町朝明溪谷伊勢谷, 1♀, 8.VI.1999.

Paracardiophorus sequens sequens (CANDÈZE, 1873) アカアシコハナコメツキ

鈴鹿市東磯山鼓ヶ浦, 1♂, 2♀♀, 3.IV.1999; 津市高洲町中河原海岸, 1♂, 14.III.1999.

(きしい たかし)

クリサキテントウの冬季採集例

高井 泰

〒509-3500 岐阜県大野郡宮村 363-1 マンションみやび 202

佐々 治寛之

〒910-0206 福井県丸岡町川上10-34

クリサキテントウ *Harmonia yedoensis* (TAKIZAWA) は、酷似種ナミテントウがしばしば人家などでも集団で越冬するのが見られるのに対し、これまで冬季の観察例がまったくなかった。今回岐阜県高山市で、1月に本種を採集することができたので記録しておく。

1♂、岐阜県高山市越後町松倉山林道、28.1.2001、高井採集。

この冬は、高山市も久しぶりの大雪で、例年であれば冬季も車が通行できる林道も、除雪が間に合わず膝上までの雪が積もっていた。やむを得ず徒歩で雪上で活動する昆虫を探していたところ、2頭のテントウムシを見つけた。うち1頭が特有の四小紋を持つ個体で、クリサキテントウと同定できた。頭上を見上げると松の高木とそれよりヒノキがあったので、松の木のどこかで越冬していたものが、落雪に巻き込まれて落下したものではないかと想像される。本種は年間を通して、松の樹上で生活しているのかも知れない。もう1頭の方は斑型で同定は困難であるが、クリサキテントウと推定される。
(たかい やすし・ささじ ひろゆき)

黒澤良彦先生を偲んで

遠山 雅夫

〒391-0000 長野県茅野市茅野郵便局私書箱4号

日本産のタマムシ科研究の基礎を作られた黒澤良彦博士が亡くなられた。ちょうど私がタマムシの分類に興味を持ち始めた頃から、それに没頭し情熱を燃やした時期を経て、分類への興味が薄らいで行くまで、ひとかたならぬご指導を受け、大変お世話になった。

私が高校生になるかならないかの頃、「昆虫と自然」が発刊され、世界のアゲハチョウの解説が連載された。この企画は、駆け出しの蝶屋に生物地理のおもしろさはもちろんのこと、世界的視野で虫を見ることの楽しさと必要性を教えてくれた。どのようなグループでもいいから、いつかは新種を記載し、生物地理に関連させて系統解析をしてみたいという希望に胸を膨らませていたものだった。研究の対象がどのような分類群であれ、このような仕事をしてみたいと当時は思っていた。しかし、大学では化学を専攻していたこともあり、なかなか自分のテーマとなる分類群を見つげられず、興味の対象が転々と変わっていた。

鱗翅目も含め、さまざまなグループに手を出し、やっとタマムシに辿り着いた頃、甲虫談話会の会合ではじめて出会った先生から「月に何度かは国立科学博物館の研究室に遊びに来なさい。」と言われ、それに甘えるように博物館に通うようになった。おそらく私は黒澤学校の最後の門下生であったと思う。先生の厳しさ激しさについては、それまであちこちで聞かされていたが、私は最後までそのようなお姿に出会うことはなく、むしろ私にとってはいつもおだやかな先生であった。

先生はタマムシの研究では第一人者でおられたと同時に、蝶やその他の昆虫にも深い造詣を持っておられた。特に生物地理には一方ならぬ興味を覚えておられた。私は先生と月に数回の議論を重ねて行くうちに、だんだんとタマムシの記載分類よりも系統解析や分布パターンの解析に力がいって行くようになった。先生には科博に所蔵されている標本を自由にに使わせていただき、外国の博物館から借用した標本と合わせて、タマムシ科甲虫がどのように分類され、どのような分布をしているのかの概要がつかめたのもこの頃であった。また、他のグループもできるだけ知っておかないといけなと言われて、オオハナノミやナガシクイ、オオキノコ、ツツシクイ、ツチハンミョウなど、お伺いした時の話題に事欠くことはなかった。おかげで私もこのあたりのいくつかのグループについて、少しは話が出来るようになった。

先生との議論、特に二人とも最も興味を持っていただろうテーマの一つである進化についての議論が進むにつれ、徐々に先生との見解に開きが出てきたのは皮肉なことだった。私は異常型の解析からパターン形成における分節システムに興味を持ち始め、そのあたりから構造主義進化論に傾倒していった。逆に先生は、それとは相反する概念である擬態に傾倒されていった。さらに私がタマムシの分類よりも、この生物の進化の方に強く関心を持つようになり、いつの頃からか、議論中に少し困ったような顔をされるようになった。こんなこともあって、先生のもとからは徐々に足が遠のいてしまった。

数年間は別刷りと年賀状のやりとりだけになっていたが、先生からの年賀状に「やっと君の言っている事が分かってきたような気がします。」と書かれてあるのを目にしたときには熱くなる思いがした。周りにいる同世代の分類屋さんが、私の言うことをなかなか理解してくれない中で、先生はやはり気にかけて考えてくださっていたのだ。これでなんとなくもやもやしていたものが吹っ切れたような気がした。しかし、すでに先生の状態が思わしくなかったのか、これを最後に連絡がとぎれてしまった。

先生から、多くのことを学ぶことができた。特に、「関心をもったテーマなら、必ずある程度のレベル以上の知識はもつように。」という教えは、私にとってタマムシの知識と共に大切なものであった。意見の食い違うことも多くあったが、基本的には本人の考えていることは尊重するということなのか、私の言うことはよく聞いてくださった。私はここぞとばかりに考えをまくし立てて、ずいぶん先生を困らせた。

先生は、自分には三人の後継者がいると言っておられたことがある。一人は蝶の、一人は生物地理の、そしてもう一人はタマムシのそれである。私はどうやら最後の分野だったらしいが、長らくタマムシの論文を書いていないので心苦しい限りである。先生が道筋をつけられた日本産タマムシの研究の火を絶やさないと誓って、ご冥福をお祈りしたい。(とおやま まさお)

黒澤良彦 博士のご逝去を悼む

日本甲虫学会会長 佐々治 寛之

〒910-0206 福井県丸岡町川上10-34

日本における甲虫界の重鎮であった黒澤良彦博士が2001年2月27日にご逝去された。享年79歳。博士はタマムシ科甲虫の世界的分類学者で、クワガタムシ類をはじめ広い範囲の甲虫分類群を包括的に研究されただけでなく、蝶類にも造詣が深く、また昆虫類を中心とした生物地理学的分野でも輝かしい業績を残された。それらは公刊された莫大な量と質の著書・学術論文によって計り知ること

が出来る。博士は衆知のようにずっと国立科学博物館動物研究部(昆虫)に定年退職まで勤められた。日本および近隣地域の自然史に関する中核研究者であった。

博士の学術上貢献は上にも述べたように秀れた研究成果によるものであることは言うまでもないが、後進者、さらには広く一般市民に対する啓蒙活動を見逃すことが出来ない。というよりも博士は専門的昆虫学者であると同時に、“むしや”を自認され、昆虫そのものをこよなく愛情を以って対応してこられた。いつも博士の周囲には指導を求めて集まる多数の同好者が絶えなかったと聞く。特にアマチュア虫屋からの信頼度は抜群で、多くの会合に招かれていたようである。そのような虫屋に対する包容力の反面、研究そのものに対する姿勢は厳しく、批判的な精神も旺盛であった。甲虫屋の中にも黒澤博士に叱られたり、非難された方も少なくないと思われるが、それは学問を厳しく見つめる愛の鞭であったろう。

実は私が大学院生の頃だったろうか、親切にして下さるのに調子になり、多少批判めいたことを書いたことがある。黒澤さんは大層ご立腹になったと第三者から聞いた。しかし、それはとんでもない誤解であることが理解され、すんなり納まったどころか従前以上に親密にご指導いただくようになった。

私事に亘って恐縮であるが、私は高校時代「長崎県のタマムシ科の研究」で受賞したが、その際に細部に亘って助言下さったのが黒澤博士であった。私は九州大学に進学し、九大は戦前しばらく黒澤博士が在籍した所でもある。私は研究対象を「テントウムシ科を中心としたヒラタムシ上科」としたが、しばしば科博を訪れて、甲虫全般のことや、特に生物地理学について有益な指導をいただく。タマムシ科は今なお大好きな虫であるが、どうやら専門の対象ではなく趣味の虫といっても良からう。黒澤博士と私が顔を合せると話題はタマムシへと弾む。言うまでもなく文頭に述べたように博士はタマムシの大御所であったが私は素人である。その証拠にタマムシの新種を一つも記載していない。

黒澤良彦博士なる巨星が地平線に没した。大きく美しく輝いていた星であった。林 匡夫博士、草間慶一博士、中根猛彦博士に続いての偉大な甲虫学者の逝去を佐々治個人として、また日本甲虫学会会長として心からお悔み申し上げる。博士の国内における学界活動の中心は晩年には関東であったが、「甲虫談話会」、「日本鞘翅(目)学会」が発足する以前は「日本甲虫学会(近畿甲虫同好会が前身)」が日本における甲虫を代表する学術団体で、黒澤博士も幹事をしていただいた。学協会の運営等は抜きにして、黒澤博士が日本の甲虫界を力強く支え、ご指導下さったことに感謝して追悼の言葉としたい。先生どうもありがとうございました。(ささじ ひろゆき)



1986年1月科学博物館の研究室にて (大和田守氏撮影)

虫屋の広場(37)

[創刊紹介]

◎雑甲虫ニュースレター

愛媛大学の酒井雅博氏の肝いりで、雑甲虫好きの人の集りが「雑甲虫談話会」の名で発足し、その連絡誌として昨年(2000)末「雑甲虫ニュースレター」が創刊され、既に第2号も出されている。40

余名の会員の顔ぶれは本学会会長の佐々治先生をはじめ、いずれもなるほどと合点の行く面々で、今後の発展がおおいに期待される。雑甲虫愛好家を自認する方には、直ちに入会して盛り上げていただくよう、また相互連絡を密にして研究効率に資するよう希望してやまない。

連絡先：酒井雅博氏(愛媛大学農学部昆虫学研究室)Tel.(Fax)：089-946-9927. E-mail：konchudo@agr.ehime-u.ac.jp (水野弘造)

会 報

発行：2001.06.25. 日本甲虫学会(会長 佐々治寛之)
 (本部) 〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園 1-23 大阪市立自然史博物館・昆虫研究室気付
 振替口座: 00990-8-39672 URL: <http://www.mus-nh.city.osaka.jp/jcs.html>
 Tel: 06-6697-6221 Fax: 06-6697-6225 E-mail: shiyake@mus-nh.city.osaka.jp
 昆虫学評論原稿送付先(英文)
 〒666-0116 川西市水明台 3-1-73 林 靖彦 Tel. 0727-93-3712
 E-mail: hayashiy@silver.ocn.ne.jp
 ねじればね原稿送付先(和文, E-mailでの投稿を歓迎します)
 〒611-0002 宇治市木幡熊小路 19-35 水野弘造 Tel.(Fax) 0774-32-4929
 E-mail: kzmizuno@oak.ocn.ne.jp
 〒614-8371 八幡市男山雄徳 8 E7-303 伊藤建夫 Tel.(Fax) 075-983-3491
 E-mail: itokyoto@gb3.so-net.ne.jp
 入会及び会費問合せ先(年会費 5,000 円, 入会金は不要)
 〒590-0144 堺市赤坂台 1-18-5 野村英世 Tel. 0722-98-4066